

1 保護林の概要 ※保護林管理方針書より抜粋

名 称	小黒川ウラジロモミ 遺伝資源希少個体群保護林
位 置	黒河内国有林 211 い、212 は林小班
面 積	11.48 ha
設定目的	温帯から亜高山帯への移行帯におけるウラジロモミ、イラモミ、ダケカンバを遺伝資源として保存する。
地況・林況	ウラジロモミ、イラモミ、ダケカンバ、コメツガ等から構成される天然林となっている。

2 これまでの経過

令和 3 年 10 月 18 日、南信森林管理署職員により保護林モニタリング現地調査を実施した際、保護林内に作業道跡が確認されました。その後、同署内にて過去の経緯等を確認したところ、平成 31 年度に同署が発注した製品生産事業（搬出間伐）において、保護林内を通過して作業道を作設した事実が判明しました。

判明後、作業道の作設状況の詳細を確認するため、同署職員により再度現地確認を行う予定としていましたが、降雪に伴う保護林に至る林道の閉鎖により令和 3 年度中の確認ができず、融雪後の令和 4 年 5 月 17 日及び 6 月 2 日に、現地確認を実施しました。

なお、令和元年東日本台風により現地に至る林道が被害を受け、当該製品生産事業は集材開始前に取り止めとなったことから、現在まで作設した作業道を木材運搬車が通過したことはありません。

3 作設した作業道

林小班	延長 (m)	幅 (m)	面積 (ha)
211 い	420	5.0	0.21
212 は	75	5.0	0.04
計	495	5.0	0.25

※作業道作設面積は、保護林全体の約 4.6%に相当

4 伐採した遺伝資源保護対象樹種

ウラジロモミ	24 本	平均胸高直径 17 cm (最小 10 cm～最大 38 cm)
		平均樹高 10m (最小 5m～最大 20m)
ダケカンバ	22 本	平均胸高直径 25 cm (最小 16 cm～最大 34 cm)
		平均樹高 14m (最小 9m～最大 18m)

5 現地の状況

別添の写真のとおり

6 再発防止に向けた対応状況

本件については、作業道作設箇所が保護林であることを、事業実行に関わる職員が認識していなかったことが原因であることから、令和4年2月15日付で管内全ての森林管理署等に対し、事務連絡「保護林内における作業道作設に係る再発防止策の徹底について」を発出するとともに、2月28日に開催した森林管理署長等会議において、再発防止に向けた周知徹底を行いました。令和4年度においても、森林管理署長等会議や森林計画担当者会議など、機会あるごとに再発防止策の徹底を指示しているところです。

事務連絡「保護林内における作業道作設に係る再発防止策の徹底について」の再発防止に係る取組事項等

1 保護林等の設定箇所の周知徹底について

- (1) 各署等において、保護林案内看板など標識類の整備が進められているが、保護林に人工林が隣接している場合は、林道沿いなど職員等が確認しやすい位置に設置するなど、現地に応じた対策を講じること。
- (2) 現地踏査や調査時に用いる施業計画図、PDA等に表示される地図記号に注意するとともに、不明な点がある場合には、森林調査簿と突合し保護林等の設定の有無につき確認を行うこと。
- (3) 保護林等を管轄する森林事務所においては、引継書類に「保護林、緑の回廊概要」及び管轄する「保護林管理方針書」を含めることを必須とすること。
- (4) 計画課においては、局主催の研修（基礎全般研修、基礎研修A（森林の見方）、森林官養成科研修、保安林等制限林研修など）及び定期的に行う会議（署長等会議、森林計画担当者会議等）において、注意喚起する内容を新たに組み込むこととする。

2 支障木の発生が保護林外であることのチェックの徹底について




- (1) 請負者から監督員及び署等担当者に提示される搬出系統図の審査の際、事業地外に支障木があった場合には、施業計画図や森林調査簿と突合し保護林等の確認を行うこと。
- (2) 支障木の調査後に作成・提出する収穫調査復命書の鑑にある「国土保安関係」欄には、保護林である旨明記されることから、調査員による提出及び署等担当者による受理の際、双方で確認し、署内回覧の際は、回覧者全員が鑑の同欄のチェックを確実にすること。

(保護林位置図外)

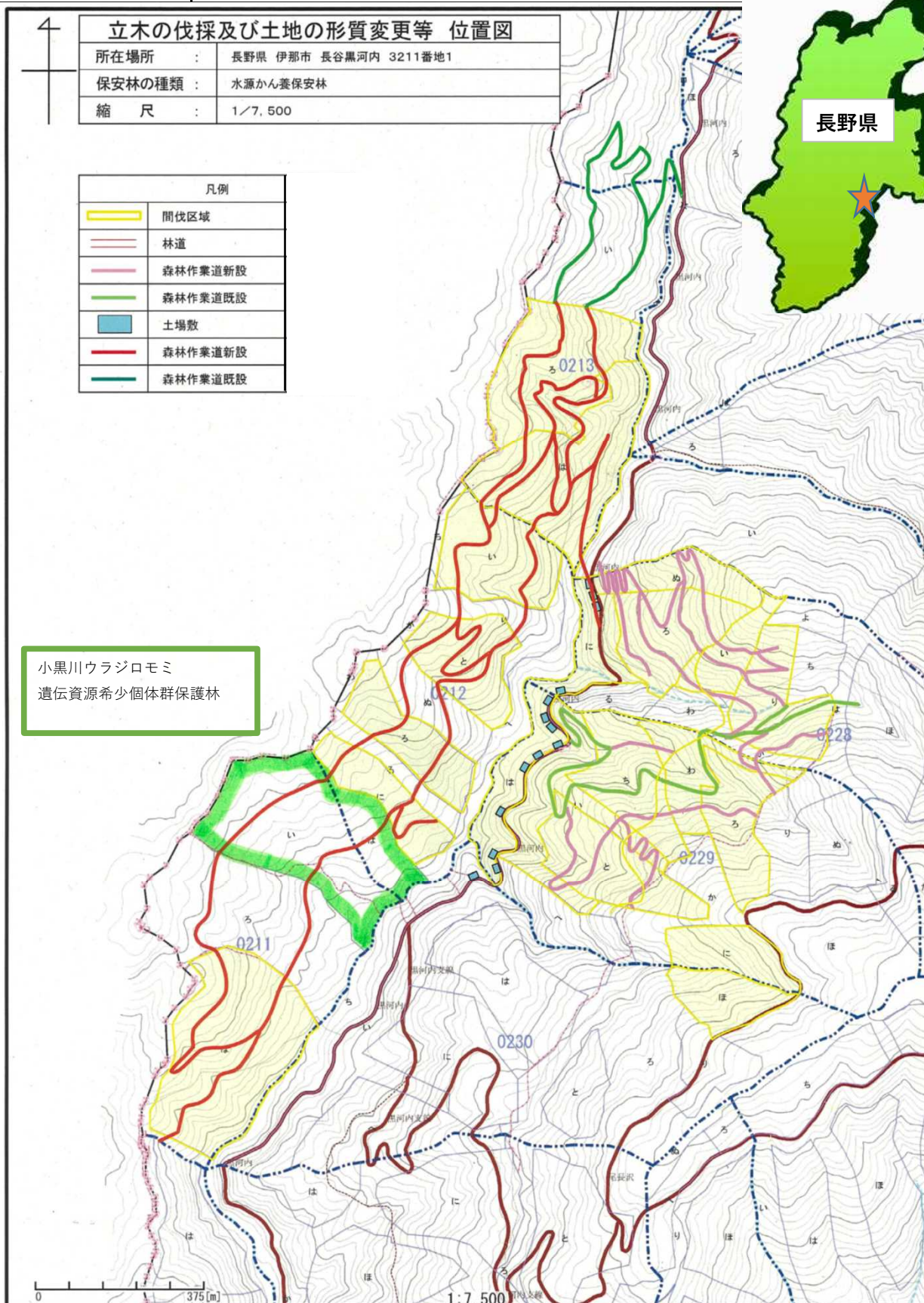
長野県伊那市 黒河内国有林211い、212は

立木の伐採及び土地の形質変更等 位置図

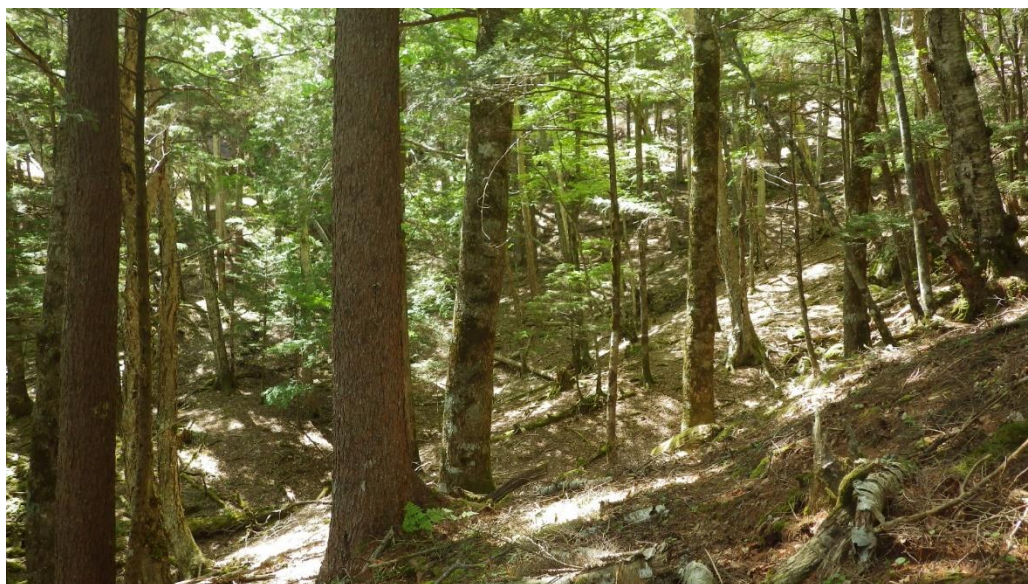
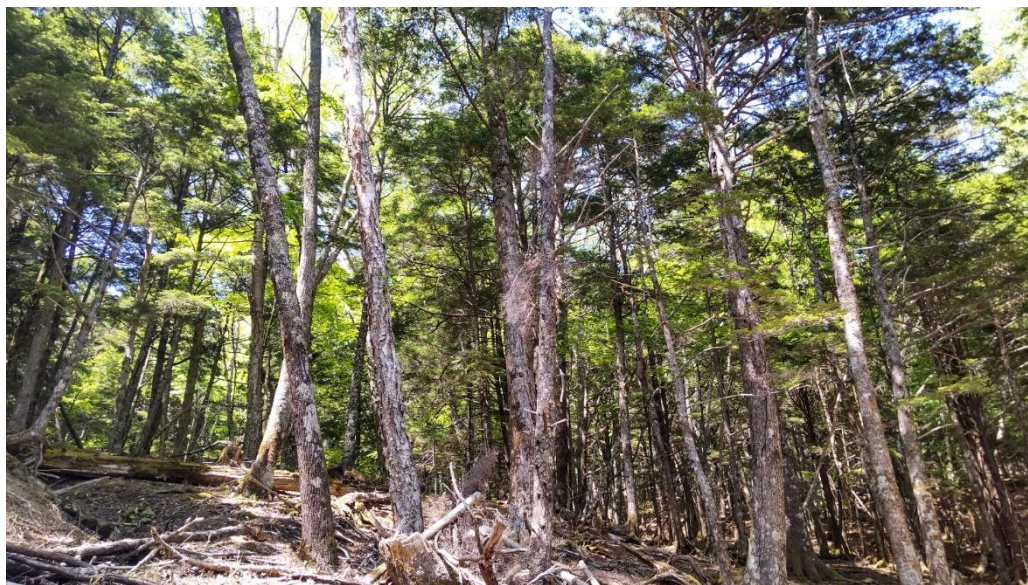
所在場所 : 長野県 伊那市 長谷黒河内 3211番地1
保安林の種類 : 水源かん養保安林
縮尺 : 1/7,500

凡例	
	間伐区域
	林道
	森林作業道新設
	森林作業道既設
	土場敷
	森林作業道新設
	森林作業道既設

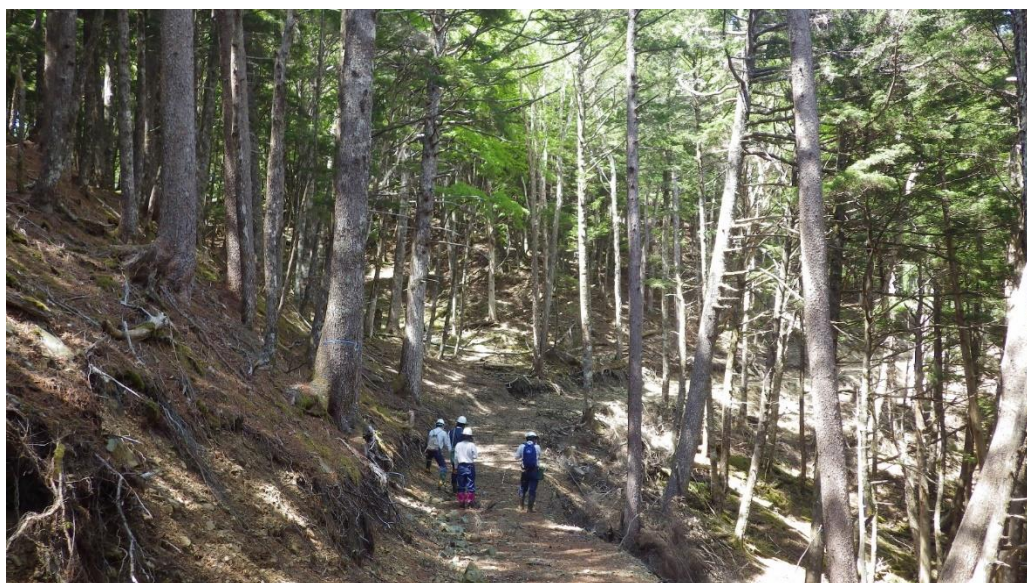
小黑川ウラジロモミ
遺伝資源希少個体群保護林



令和4年6月2日撮影
林内の状況



作業道現況



林内の一部に湧水による
土砂流出あり

(↓ は、流水方向)



湧水下部の流水の跡



作業道：
土砂流出と損壊



看板の設置状況(令和4年6月10日)
※再発防止策のひとつとして実施



小黒川ウラジロモミ等遺伝資源 希少個体群保護林

「希少個体群保護林」は、希少な野生生物の生育・生息に必要な森林を保護・管理することにより、当該野生生物個体群の持続性を向上させ、野生生物の保護、遺伝資源の保護、学術の研究等に資することを目的に設定しています。

この保護林は、温帯から亜高山帯への移行帯におけるウラジロモミ、イラモミ、ダケカンバ等から構成される天然林を遺伝資源として保存しています。

場 所 長野県伊那市長谷 黒河内国有林
211い、212は林小班(図面の黄色部分)
面 積 11.48ha

貴重な森林を守り、美しい自然を未来に残しましょう。
林野庁 中部森林管理局 南信森林管理署